



「初日さす 硯(すずり)の海に 波もなし」

正岡子規

(初日がさす墨の海は穏やかで波一つ立っていません)

みなさんも子規のように、新年を心穏やかに迎えられたことでしょうか。

育児や教育で大切なこと

子育てで悩んでいる人は多いのではないのでしょうか。子育てってなかなか難しいものですね。私も失敗を何度もしてきました。

子育てや教育の在り方について、「これだ」という万能なものはなく、いくつもの方法があるのでしょ。ここでは、「長所をのばすこと」について考えてみます。

○育児や教育のもっとも重要な課題は、その子どもが持って生まれた長所に気がついて、それを持っている子どもに心底ほれぼれしてやることだと思。欠点のない人間なんていないように、長所のない子どももいない。その長所を発見して、いいなあと感激してやって、そのことを子ども自身にも気づかせてやることである。そうすれば、子どもに限らず人間はみんな百点になる。ところが親や教師や大人たちが間違うのは、子どもの長所よりも先に欠点の方ばかりを見つけだして、それを直させようとすることである。欠点などそう簡単に直せるものではない。自分の胸に手を当てて考えればわかることではないか。そんな、どうせそう簡単に直すことなどできない欠点は、そのままにしておいて、長所の方を見つけ出してやれば子どもはその長所を頼りに生きていける。育児や教育の下手な人ほど、子どもの弱点や欠点ばかりにこだわっているように思えてしかたがない。

○教育とは、あらゆる子どもが必ずもっているその子固有の長所を見つけ、それに感動してやること。そしてそのことを子どもに伝えてやることだと思。短所を探し出して直してやることなど本当はしなくてもよいことだとさえ思っている。容易なことでは治せないし、その前に子どもの人格を、元も子もない状態に壊してしまうことが多い。氏(相田みつお)の言葉に「花はただ咲く ただひたすらに」というのがある。子どもが自分のことを好きになれるように育ててやりたい。それもできるだけそのまま、ありのままの自分を好きになれるように。だから「そのままでもいいがな」と言ってやりたい。人生の最初から言い続けてやりたい。

相田みつを いのちのことは 「育てたように子は育つ」 佐々木正美(著)

考えさせられる言葉がたくさんありますね。

親としては、どうしても子どもの「気になる」「足りない」ところに目がいきがちです。これは、子どもに対する期待や幸せになってほしいという願いが強いからなのでしょう。

そこで、ちょっと気持ちを切り替えて、「そのままでもいいがな」と思うようにしてみませんか。そう思うと気持ちが楽になり、子どもへの接し方に余裕がでてくることなのでしょう。子どもも悪いところ(短所)をがみがみ言われるよりは生き生きと活動するようになることなのでしょう。良いところ(長所)をもっていない子どもはいません。子どもの中には、何か光るものが必ずあるはず。その光るものに目を向けてやりましょう。

これまで、青少年育成センターだよりでは「待つことの大切さ」(第32号)と「ありのままに受け入れることの大切さ」(第38号)について取り上げています。これを機会にもう一度子育てについて考えてみられませんか。(これまでの青少年育成センターだよりは、防府市ホームページ「青少年育成センターだより」に掲載しています。ご覧になってください)

問合せ先：防府市教育委員会生涯学習課 青少年育成センター(23-3013)